社会福祉法人万葉の里、広報誌「ことのハ」秋号
つうかん７５号、202３年１０月発行

以下、音声ガイド用のワード原稿です。

**表紙**

表紙では、今年の３月に法人設立２０周年記念として開催した、ボッチャ大会の表彰式の様子の写真と、こん号のコーナー「万葉コレクション」で特集している就労継続支援事業Ｂ型どーむの利用者さんの写真を掲載しています。表紙の欄外の注記。右のQRコードを読み取ると、法人ウェブサイトに移行するためのQRコードとサイトURLの記載あり。

**にページから、さんページ：特集記事の内容**

（タイトル）　特集　継続は力なり　実践研究・実践報告会の取組

（小見出し）万葉の里・実践研究について

　「実践研究・実践報告会」は、平成27年度より始まり、令和４年度までの間で30テーマ、延べ150名近い職員がこの企画に取り組みました。国分寺市障害者センターぜん管理者の坂田晴弘氏が、平成27年度の報告書に以下の言葉を残しています。

「日ごろの支援を振り返り、今まで知らなかった実践や技術にふれることで、新たな支援の可能性が広がり、その中から自分たちが目指し実践していることを関係者や地域のかたに知っていただく。そのことで、利用者が地域で生き生きと暮らすことに繋げていきたいと考えています。そのためにも、継続して実施できるように、今後も努力してまいります」と。その言葉どおりに、８回目を迎えることができ、「継続は力なり」と感じます。

　回を重ねる中で、「実践研究」というよりは「実践報告」の色彩がより強くなりつつあるのではとの議論から、平成31年度より現在の名称「実践研究・実践報告」へと変わりました。手探りで始まったこの取組ではありますが、目的を以下の３つに整理し取り組んでいます。「日々の支援を説明する」「新たな支援に挑戦しアピールする」「専門職としての力を磨く」。今後、この取組がどう変化するのか、そして、職員一人ひとりにどのような影響をもたらすのか、それらを期待しつつこれからも取り組んでいきます。

（写真・いち）令和４年度の実際の報告会の様子の写真

（キャプション）発表することとなった部署は、テーマについて講師を招き研修を行う、他法人を見学する等、約8か月かけて取り組みます。一番大変な作業はパワーポイント資料作成かもしれません。

（写真・に）令和４年度までの実践報告書の書類の一覧の写真

（キャプション）発表者がまとめたパワーポイント資料、参加職員の感想をまとめ、毎年報告書を作成しています。職員からの感想は、取り組んだ後の振り返りに役立ちます。

（小見出し）インタビュー　実際に研究発表に取り組んだ、ケアホームこの葉の鵜澤職員に話を聞きました。

（質問・いち）ケアホームこの葉が実践研究を行うこととなった経緯を教えてください。

当時、ケアホームこの葉（以下、この葉という）が開所して、５年目を迎えるタイミングでした。当初は利用者、職員ともに、「この葉での生活の安定」が大きな目標でした。時間の経過とともに、利用者、職員双方の頑張りによって「安定した生活ができている」と思えるようになり、次のステップとして、利用者一人ひとりへの掘り下げた支援を模索するようになりました。この葉の職員として、何を優先する必要があるのかを皆で考え、実践研究の場で検討を行いました。

（質問・に）研究テーマ設定の理由を教えてください。

それまでも、日々の支援の振り返りはおこなっていましたが、「入居当初からの利用者の変化」という長期的な面での振り返りはおこなっていませんでした。そのため、一人の利用者に焦点を絞り、入居から現在に至るまでの利用者の変化や支援内容を振り返り、これまでの支援の「みえる化」を目標とし、テーマを設定しました。

（質問・さん）実践研究から得られたことについて教えてください。

「立ち止まって振り返ることの大切さ」をあらためて実感しました。支援は積み重ねであり、適切な関わりは日々変化するものだと考えています。取組を始めた意図や、その結果がどうであったか、支援による変化などを、立ち止まって振り返ることができたと感じています。また、これまでの支援を見直したことで、職員が支援の意図や目的を明確に説明できるようになったことは、大きな成果だと感じています。

（質問・よん）そのご、研究から得られた成果をどのように活かしましたか？

現在この葉では、入居前の状況や、これまでおこなってきた支援について、職員間で会議の場での情報共有をおこなっています。職員の入れ替わりはあるもので、利用者の現在しか知らない職員もいます。過去を知り、それを職員の共通認識とすることで、明確な根拠を持って支援を行うことができると考えています。利用者の皆さんには、それまで積み重ねた人生があり、そのすべてを知ることは難しいですが、「今に至るまでの経緯を知る・知ろうとする」という姿勢は支援者にとって必要なことだと思います。これらのことは実践研究によって気づくことができました。

（質問・ご）実践研究での取組を終えて、鵜澤職員の今の思いや考えについて教えてください。

職員はみな、利用者本位のよりよい支援の為、悩み、苦しみながら、試行錯誤してとりくんでおり、その積み重ねにより現在の利用者の生活があるのだと思います。それは、利用者の方々のもつ「力」によって得られた部分も大きいですが、それと同じ位、職員の「頑張り」も大きく関係していると思います。立ち止まって振り返ること、そして自分たちの頑張りを評価すること、この二つをぜひ実践研究の場に限らず、日々の支援の中でも意識していきたいです。

（注釈）鵜澤職員がとりくんだテーマ

令和３年度　「短期入所事業を『体験機会の場』にするために」

令和４年度　「一人の利用者の変化を通してケアホームこの葉の支援を振り返る」

（写真・さん）鵜澤職員へインタビューをおこなっている様子の写真

（表）実践研究・報告会　これまでのテーマ等について

平成27年度

「自閉症を知る」

「障害者の高齢化～現在・そしてこれから～」

「発達障害について～ご本人を理解するために～」

平成28年度

「地域資源のアセスメントと活用」

「地域との交流～地域活動について～」

「行動障害のある方の支援に取り組んで」

「平成27年度に基幹相談支援センターに入ってきた相談の傾向を分析する」

平成29年度

「地域活動への参加とその効果」

「一人暮らしへの支援」

「自閉症のかたへの支援に取り組んで」

「就労支援の実践研究報告～表面的なニーズではなく、潜在的なニーズを引き出すための実践～」

「基幹の果たしている機能～相談実績からの分析～」

平成30年度

「地域活動支援センターつばさで自信をもって働くには」

「基幹の果たしている機能～相談実績からの分析～」

「働くまでの道のり～自分を見つめ直して～」

令和元年度

「３つのグループが一つになったパーテーション開放　～新たな発見を求めて～」

「理念を形にすること～Ａさんの支援を通してみえたもの～」

「基幹の果たしている機能Part3～他者評価からの分析～」

「グループホームにおける余暇支援について」

令和２年度

「時間欠乏症を解消する取組～時間効率の改善と支援の向上～」

「基幹相談支援センターの実践の展開」

「働くまでの道のり～第２章　ともに歩もう～」

令和３年度

「地域をベースにした実践を考える」

「利用者本位の支援を探る～パーテーション開放からのステップアップ～」

「短期入所事業を『体験機会の場』にするために」

「社会福祉法人万葉の里～法人設立に込められた想い～」

令和４年度

「はばたきの取組～あなたの『やりたい』『なりたい』にこたえたい」

「ショートステイえんじゅの今そしてこれから～データ分析を行い受け入れ枠を工夫した取組の実践報告」

「基幹10周年事業の振り返りと展開～基幹キャラクター『とわぷる』の誕生～」

「一人の利用者の変化を通してケアホームこの葉の支援を振り返る」

**よんページから、ごページ：万葉コレクション、事業紹介**

（タイトル）　「働く夢を応援する場」　～就労継続支援事業B型どーむ～

（サブタイトル）　夢をもって働く！　つながりを大切に

（記事本文）

「就労継続支援事業B型どーむ（以下、どーむという。）」は、様々な障害のあるかたが「喫茶」・「スイーツ作り」・「清掃」の３つの仕事をおこなっています。仲間同士の協力や交流といったチームワークを通して、仕事をすることの楽しさや喜び、責任感を持って働くことを大切にしています。

初代理事長は「喫茶は障害者センターの顔である」と言いました。喫茶いずみは障害者センターの入口すぐにあり、いずみプラザでの健診後にお子さんと一緒に立ち寄ってくださるお客さま、喫茶いずみの日替わり弁当を毎日のように買いに来てくださる地域のお客さまなど、様々なかたにご利用いただいています。利用者さんは、フロアと厨房に分かれて働き、商品はお客さまの口に直接届くものであるため、常に衛生面に気を配りながら仕事にのぞんでいます。

スイーツづくりは、地域の中に工房を構え、無添加・無着色の安心・安全なお菓子の製造・販売をおこなっています。スイーツのお菓子は、工房での直売や喫茶いずみでの販売のほか、「東京経済大学」の学生さんと定期的に会議を行い、学内の生協や大学構内での販売もおこなっています。そして、昨年12月には、「国分寺障害者施設お仕事ネットワーク」の障害者週間の取組みとして、ノノワにしこくぶんじにはつ出店しました。そこで、「仕事帰りだと閉まっているので買えなかった」、「いつも買っています」というお客さまの声を伺いました。地域のイベントを通じ、多くのかたに「どーむ」を知っていただくことが、これからの地域交流にとても大切なことだと思います。

清掃作業は、主に市役所と市内の公園のトイレの清掃をおこなっています。清掃は1年間を通して仕事があり、市役所清掃では、職員のかたが仕事をしている中、声をかけながら掃除するなど、決して楽な仕事ではありません。しかし、自分たちがきれいにした場所を市民のかたが使用することを思うと、やりがいのある仕事だと感じます。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けさまざまな活動が縮小されましたが、利用者のみなさんと話し、意見を出し合いながら、自分たちができることを取り組んできました。これからも、地域のみなさまとのつながりを大切にし、利用者の皆さんが住み慣れた国分寺で、自信や夢をもって、いきいきと働くことを応援します。

つうしょ支援に課　課長　　やまべ　ひろこ

（本文欄外の注記・いち）

就労継続支援事業B型とは

通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である方に対して、就労の機会や生産活動等の機会の提供、また、その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。

（本文欄外の注記・に）

国分寺障害者施設お仕事ネットワーク（略称：国分寺お仕事ネット）とは「国分寺市内に活動拠点を持つ障害者が働く事業所や協力団体の集まりです。障害者の方々の生活向上のため、「仕事の拡充」と「工賃アップ」を目指し、共同受注に取り組む活動などをおこなっています。

（表・いち）あゆみ

平成１５年４月

国分寺市障害者センター開所。

「心身障害者（児）つうしょ訓練事業喫茶いずみ」の事業を開始。

平成１８年４月

「スイーツいずみ」としてアパートの一室を借りて菓子製造を開始。

平成２１年６月

制度移行により「就労継続支援事業B型どーむ」と事業めいを変更。

平成２２年４月

移転し「洋菓子工房　スイーツいずみ」として、菓子製造と販売を開始。

平成２３年11月

「第５回チャレンジドカップ菓子部門」で最優秀賞である大賞を受賞。

（表・に）就労継続支援事業Ｂ型どーむについての説明

対象者：市内在住で、知的・身体・精神障害があり、訓練等給付の支給決定を受けているかた

対象年齢：18～65歳

開所び：げつようから土曜日（祝日を除く）

開所時間：9時半からじゅうろくじ（シフト制）

定員：10名

（写真・いち）喫茶のランチタイムに向け準備をしている様子の写真

（キャプション）午前中は、喫茶ランチタイムの準備で大忙し。食材とおもてなしの準備を整えます。

（写真・に）大学での出張販売にて、利用者さんとお客様がやりとりをしている様子の写真。

（キャプション）大学構内の販売では学生や教職員のかたが購入してくださり確実に認知度を高めています。

（写真・さん）利用者さんがハンドミキサーでお菓子のきじを作っている様子。

（キャプション）お菓子の決め手となるきじ作り。心を込めて仕上げていきます。

（写真・よん）東京経済大学の学生さんと職員が会議をおこなっている様子の写真

（キャプション）東京経済大学の学生さんとのコラボ会議の様子。コロナかでは、ズームでおこなっていましたが、3年ぶりの対面での会議となりました。

（写真・ご）喫茶いずみの日替わり弁当の写真

（キャプション）ホッと一息できる空間で、日替わり弁当やドリンク・スイーツなどがお召し上がりいただけます。

（写真・ろく）スイーツいずみで販売しているお菓子の写真

（キャプション）シフォンケーキをはじめ、レモンケーキ・フィナンシェ・焼きドーナツ・クッキーなど洋菓子を中心としたラインナップをご用意しております。

（注記）ごページ左下のQRコードを読み取ることで、喫茶いずみ、スイーツいずみの商品メニューへアクセスすることが可能。

**ろくページ：レッツ、活動の講師の紹介**

（リード文）　万葉の里の関係機関・団体の方々にスポットをあててインタビューを行うコーナー「Let‘ｓ（レッツ）」。第４回は、「アートと福祉をつなぐ活動」を障害者センターにとどまらず、地域で実践している、「美術家」のなかむら　ひろこさんに、活動を展開することになったきっかけや思いを伺いました。

（小見出し・いち）アートと福祉をつなぐ活動に関わることになったきっかけ

もともと、建物にモザイクや壁画、ステンドグラスの装飾をする仕事をしていた時に、その建物を使っている人に関心を持ち、一緒に活動できると楽しいだろうと思いました。そのご、イギリスで、アート教育を受けた人が教会を拠点に、障害者・刑務所から出た人・生活困窮者といった生活が困難な人を集め、アートや音楽を教えて社会に出るきっかけをつくる社会奉仕活動を見学しました。

他市でNPO法人を立ち上げ、障害のある方と関わり、「自由な時間をどう過ごすのか」ということが、生活や活動の場が限られていて、社会参加の機会や選択肢が少ない中での、長い一生のテーマになると感じました。アートを通して一生続けられる趣味を見つけるきっかけをつくりたいと思いました。

（小見出し・に）つばさのアートサロンと太陽の創作活動

つばさのアートサロンでは、自分が心地よく過ごせること、集中することを体験し、喜びや楽しみを見つけてほしいと思っています。続けたい人は続け、やりたくない人はやめていい。皆さんのほうから質問を受けることも多いです。質問することは、自分の中でこうしたいというものがあり、その確認をしていると思います。「あ、この人は集中して取り組んでいるんだ」と感じられるとうれしいです。

太陽では、絵をかくことを経験してほしいと思っているので、モチーフを用意しています。絵をかくにあたり、どの色を使うか自分で選べるように、全部の色をパレットに出しておきます。慣れてくると、使いたい色を自分で選べるようになります。

つばさの参加者が集中して絵をかいている時や自分で筆を持てない太陽の利用者が、ふっと筆に目がいき、筆の動きを目で追っているのに気づいた時、とてもうれしいです。

（小見出し・さん）アートはつながりを作り人生を豊かにする。

例えば、地域の絵画サークルに入ることは気がひけると思う人がいます。絵をかくことが習慣になっていたら、また、参加することに慣れていれば、なかにはいりやすいかもしれません。

趣味を持つことは自分の居場所を見つけることにつながります。人と関わることが苦手でも、紙とペンがあれば、どこにいても自分の世界に集中することができ、居場所にすることができると思うのです。「絵がかける・かけない」ではなく、アート活動に参加することで、社会とつながりをもてるようになります。

自分の履歴書の趣味の欄に絵画と書いてもらえることが、私の最終的な目標です。「創作活動をやりましょう」という看板を置いて、待っていますから、「どんなものか」と一度のぞきに来てください。

（写真・いち）太陽での創作活動の様子の写真

（キャプション）太陽創作の様子。この時のモチーフは季節の花。モチーフを表現できるよう、利用者は補助具を活用します。

（写真・に）つばさアートサロンでの創作活動の様子の写真

（キャプション）つばさアートサロンでは、利用者が集中して描く一方で、話しやすい雰囲気づくりをしています。

**ななページ：うぃず、職員の紹介**

（タイトル）うぃず　職員リレー紹介

（以下職員の紹介と記事）

（小見出し）

氏名：みなみ　ちほ

所属：つうしょ支援にか　就労継続支援事業B型どーむ

勤続年数：1６年

好きな言葉：八面玲瓏

趣味：ピクニック

本文：　万葉の里で、太陽、どーむ、えんじゅ、つばさとさまざまな部署に在籍し、多くのかたと出会い過ごした時間は、私にとって宝物です。まちを歩いていると、時々落とし物を見かけます。小さい子の物だと、少し高いところに置かれていることが多く、”汚れないように”と込められた優しい想いを感じます。エスディージーズを謳った歌詞に『僕らは求めるものも　描く未来も違うけれど　手と手を取り合えたなら　きっと笑いあえるから　僕にはいまなにができるかな』というものがあります。手と手を取り合うために『僕にはいまなにができるかな』は、私がだいじにしてきた想いと同じです。どんな世の中でありたいのか、後世に残したいのか、これからも専門職として、市民として歩んでいきたいと思います。みなさまとともに。

（小見出し）

氏名：すだ　みつこ

所属：地域支援いっか、地域活動支援センターつばさ

勤続年数：３年

好きな言葉：生きているだけで丸儲け

趣味：自然の中を歩くこと

本文：前職はケアマネジャーをしていたのですが、定年を迎え今後のことを考えていた時、電話のベルが鳴りました。センターのかたからのお誘いの電話でした。センター近くに引っ越したこともあり、これは何かのご縁かと思いお世話になることを決断。というのも、３０代の頃くにたちや立川の自立生活センターや当事者の方々が立ち上げた２４時間365日対応の訪問介護事業所で働いた経験があったからです。泊まり込みの介助や国との交渉、カラオケパーティーの同行など、貴重な体験をさせていただきました。その時に感じたこと、考えたことが私の原点になりました。ケアマネジャーはどちらかと言うと、ひとり仕事でしたので、今つばさでいろいろなかたにカバーしていただき、チームワークを学ばせていただいています。利用者さん、スタッフに感謝！これからもよろしくお願いします。

（小見出し）

氏名：だんじょうばら　あかね

所属：事務　総務担当

勤続年数：１５年

好きな言葉：キープ　スマイリング

趣味：ダンス、サッカー（みる専門）

本文：事務の仕事はずっとパソコンに向かっているイメージがあると思いますが、実際は電話や窓口対応、給食対応、関係機関や業者とのやり取りなど毎日たくさんのかたと顔を合わせます。利用者さんだけでなく職員や外部のかたとの関わりも多いのは事務の仕事ならではだと思います。

私は、「いちにちいっしょう」を心がけています。笑顔で挨拶・対応すること、利用者さんや同僚とのちょっとした会話ややり取りでニコッとすること、ときには一緒に楽しんで大笑いすること…笑いは相手や自分の心に元気や優しさを与えられるものではないかと思います。

関わっている方々とともに時間を過ごしながら、「いちにちいっしょう」の積み重ねをこれからも続けていきたいなと思っています。そして万葉の里がみなさんにとって安心して過ごせる、明るく優しい雰囲気であれたらと思います。

次回の職員リレー紹介は、ふじき　ゆうすけさん、あおき　よしこさん、あかいし　なおこさんの紹介です。

**はちページ：いやしけよごと、理事長メッセージ**

（小見出し）いやしけよごと～いいことがありますように～

実践研究・実践報告会はどのようなきっかけで始まったのだろうか。きくところによると、武蔵野市にある社会福祉法人「武蔵野」が実践研究をすでに取り組まれており、初代板山理事長が「ゆくゆくはうちの法人でもこのような取組みができるといいね」ということを受け、平成27年度から取り組み始めたとのことでした。

実は、私が理事長に就任し、実践研究・実践報告会を当法人でおこなっているということを知り、まず感じたのは『凄いな!!』ということでした。というのも、これまで私が実践研究・実践報告をおこなっている法人として知っていたのは、練馬区にある経営規模の大きい高齢系施設等を運営している法人のみだったからです。私もその法人の評議委員を務めていたので報告会に参加しましたが、報告会は職員以外の人も参加できる形で開催されており、実践研究はもとより、日頃の自分達の活動の周知やアピールの場としても活かしていました。そのような意味からも、毎年行われている当法人の実践研究・報告会は、『果敢な挑戦!!』と言っても良いのではないでしょうか。

私は、これまで令和3年度、令和4年度の2回、8部署(チーム)の実践研究・実践報告会の場に参加しました。報告会を通じ、研究に取り組む部署(チーム)が、テーマの設定から研究計画書の作成、研究開始、発表資料の作成、発表のリハーサルなど報告会に向けて、8か月ほどをかけ、テーマに掲げた日々の支援で抱えている困難な課題に対してどう解決したらよいか真摯に取り組んできた様子を垣間見ることができました。

日頃、自分が携わっている仕事を口頭で説明するのは意外と難しいものです。実践研究・報告会までの過程で得たものや報告の場を通じて、自身がおこなっている日々の仕事を振り返り、説明できる力、アピールする力、チャレンジする力、専門家の役割を磨く場として活用すること、そして、そのことが、法人全体の力量アップにも繋がります。『継続は力なり』です。果敢な挑戦を続けていきましょう!!

（理事長、むろち　たかひこ）

（小見出し）法人設立20周年記念行事ボッチャ大会ご報告

法人設立20周年を記念して３月22日（水）、28日（火）の２日間、ボッチャ大会を開催しました。障害者センターやKOCO・ジャムにつうしょされている利用者から、日頃はつうしょ事業を利用されていないグループホームの利用者まで、万葉の里に関わる多くのかたが参加し、交流する機会になりました。

　また、ボッチャ大会と並行して、前号にて結果発表をおこなった「20周年記念写真コンテスト」の入賞作品を使用した記念ひんのカレンダーを作成し、利用者の皆さまにお渡ししました。

（小見出し）「万葉の里オープンデイ」告知

10月8日（日）13時からじゅうごじで、国分寺市障害者センターにてオープンデイを開催します。利用者のみなさまと一緒に活動するプログラムや体験コーナーを設け、お待ちしております。

**はちページ：編集後記**

（小見出し）編集後記

「研究」という言葉を聞いて、どのようなイメージを持つでしょうか。大学や研究所の中で、たくさんの本や研究機器に囲まれている姿でしょうか。

　「実践研究」は、多くのかたにとって聞き慣れない言葉であったかと思います。個別性が高い支援の実践と、ひとつの真実を追究する研究という取組が、どう両立し、支援に活かされてきたのか。イメージとは異なる職員の姿がそこにあったかもしれません。特集記事を通して、８年間の取組の一端を知っていただければと思います。

**はちページ：ご案内**

令和４年度事業報告・決算報告について、法人ウェブサイト上にて更新し、ご覧いただけるようになっております。

広報誌誌面とあわせて各事業の具体的な取り組みを見ていただくことができます

（はちぺーじ左下にアクセスのためのQRコードが記載。）

**奥付**

発行び：2023年１０月1日

発行：社会福祉法人万葉の里

住所：郵便番号185-0024、東京都国分寺市泉町2-3-8

電話：042-321-1212　、ファックス：042-321-1207

制作協力：有限会社ななしゃ

印刷：社会福祉法人ななえの里、ともしび工房

問合せ先：社会福祉法人万葉の里、広報委員会